

授業科目名	地域保健マネジメント学
単位数	1
授業形態	
講義コード	6205
授業担当者氏名	清水順市(シミズ ジュンイチ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	1. 地域包括ケアシステムについて説明できる。(DP1, DP5) 2. 地域ケア会議について説明できる。(DP1, 5, 6) 3. 介護予防事業について説明できる。(DP1, 5, 6) 4. 地域包括ケアシステムにおける作業療法士・理学療法士の役割を説明できる。(DP7, 8, 9) 5. 多職種連携について説明できる。(DP7, 8, 9)	
授業概要	地域保健を維持・推進するために、自治体や保健所の役割を把握し、地域で生活する人たちが有する問題と国や行政が進める施策とを対応させて、そこで生じる課題を列挙し解決法について討論する。リハビリ専門職である作業療法士・理学療法士が地域保健活動における役割、さらに災害支援等での多職種と連携した関わり方について教授する。	
教育課程内の位置づけ	リハビリテーション学科 作業療法学・理学療法学専攻 専門教育科目 専門科目 作業療法学・理学療法学共通科目 3年 必修	
授業におけるアクティブな特徴	特徴	該当
	A:課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	なし
	B:課題解決型(PBL)連携なし	なし
	C:討議(ディスカッション、ディベート等)	あり
	D:グループワーク	あり
	E:プレゼンテーション	あり
	F:実習、フィールドワーク	なし
	G:双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	あり
	H:双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)	あり
	I:反転授業	なし
	J:外国語のみで行われる授業	なし
授業計画	第1回	地域包括ケアシステムの必要性を学ぶ、地域の定義。
	第2回	地域包括支援センターの役割、地域づくり、地域の力
	第3回	地域ケア会議とは何か 会議のアウトカムは何か
	第4回	地域ケア会議におけるリハビリ専門職の役割 先進事例から学ぶ。
	第5回	介護予防事業の取り組み 認知症予防、フレイル予防
	第6回	実践事例から学ぶ、個別地域ケア会議における事例①
	第7回	実践事例から学ぶ、個別地域ケア会議における事例②
授業外学修予習(事前学修)	各授業 [平均30分] 言葉の定義を調べる。	
授業外学修復習(事後学修)	各授業 [平均 30分] 個人の課題と地域の課題とが混ざらないように各授業終了後に整理すること。	
評価方法	授業レポート:30%、 期末試験:70%	
教科書等	・田中康之、清水順市、地域包括ケアにおけるPT・OTの役割、個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ、文光堂、2016。	
課題に対するフィードバックの方法		
その他	・模擬個別地域ケア会議を実施し、会の運営法を指摘する。	
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
授業担当者の実務経験の内容	地域ケア会議に出席し、地域問題や地域課題を抽出し政策提言をした内容を模擬個別地域ケア会議でフィードバックする。	
ファイル		